

## 防長の自然学散歩-22 「秋吉台・中尾洞探検記」

美祢市の「秋吉台エコツアー」が主催する標記のエコツアーに参加して、非日常の世界を垣間見してきました。

秋吉台には洞窟が450程度存在していますが、今でも新洞が発見され続けています。その中で天然記念物に指定されているものは、秋芳洞・大正洞・景清洞・中尾洞の4ヶ所だけです。



その内、中尾洞は唯一の台上ドリーネを入り口とする竪穴で、発見当時の状態が良く保存されている洞窟です。ここは市の許可が無ければ入洞することが出来ず、しかも必ず専門のガイド同伴が必要な、全く自然のままの洞窟なのです。入洞に際しての出立ちは、参加者全員がつなぎの作業服に長靴、ヘルメットにヘッドランプ、ゴム引きの手袋といった本格的な装備です。

入り口付近の洞内は天井が崩落して広くっており、落ちた岩石が積み重なって歩いて降りられるのですが、奥へ下るにつれて足場が悪くなり、木製の危なっかしい梯子が連なる危険なルートとなります。一旦最低部になり、そこからは又登って、最奥部は平坦な横穴となります。そこでは洞内に沈殿した、くるぶしまで埋まりこむ粘土層に足を取られて悪戦苦闘したり、狭窄部分を潜り抜けたりして、体中泥まみれの探検気分を味わいました。

洞内の鍾乳石や石筍は、粘土で覆われてはいますが、良く発達しており、美しいものが多く見られます。一方奥の洞は1m以上の粘土層の堆積があり、上部はトラパーチンと呼ばれる石灰華と粘土の層で固められており、最奥部の先は完全に埋まってしまっています。また洞内生物も多く、今回はキクガシラコウモリや、巨大でおぞましいカマクラオオゲジに遭遇しました。

特徴的な事象として、洞内が風穴と同様な構造になっていることに依り、温度が他の洞窟に比べて低く、最低部は夏でも10℃程度となるのだそうです。

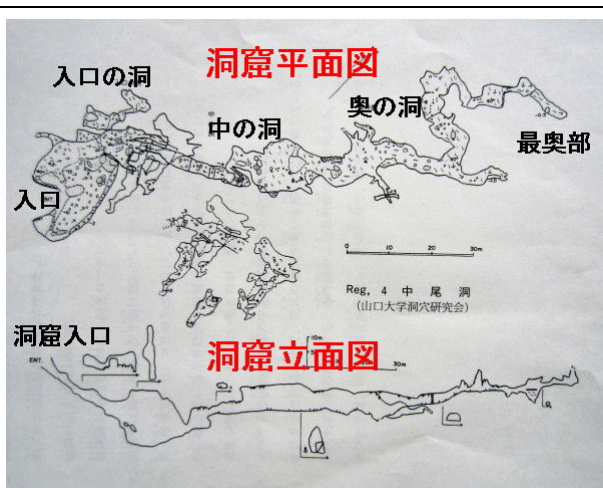


キクガシラコウモリ



カマクラオオゲジ (15cm)

洞窟の最奥部で、ガイドが貴重な体験だと言って、全員のヘッドランプを一斉に消させ、無言の状態待機させたのです。1~2分間の真暗闇と無音だったのですが、「もし、これが現実だったら」と不安と恐怖を感じて、思わずぞっとして身の毛がよだったのです。



中尾洞の測量図



粘土層に覆われた鍾乳石